



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 池江4冠 復活証明

### 競泳日本選手権 「自分褒めたい」

白血病から復帰してリレ

12種目で東京五輪代表入りを決めている競泳女子の池江璃花子(20)は、リネンサンズが10日、五輪会場の東京アクアティクスセンターで開かれた日本選手権の50メートル自由形を24秒84、50メートルバタフライを25秒56で制し、病气判明前の2018年以來となる大会4冠を達成し

た。

19年2月の病气判明から約2年2カ月で臨んだ今大会は、8日間で4種目計11レースを泳いだ。国内で圧倒的な強さと、病で長期療養していたことを感じさせないタフさを見せ、「(自分を)褒めてあげたい」と喜びに浸った。活躍に期待が高まる地元開催の五輪へ

「決まったからにはしっかりと自分の使命を果たさないといけない。全力でチームに貢献したい」と意気込んだ。

池江は4日に100メートルバタフライ、8日に100メートル自由形で優勝し、400メートルドレーリレーと400メートルリレーの選考基準を満たした。50メートル自由形は日本水泳

連盟が定める派遣標準記録(24秒46)には届かなかった。

非五輪種目の50メートルバタフライを除く池江が勝った3種目は個人で選考基準をクリアした選手がいなかったため、五輪本番で池江が出場する可能性も十分ある。

### 「五輪の象徴」高まる期待

池江璃花子が新型コロナウイルスの影響で1年延期となった大会を象徴する存在になるとの期待が早くも高まっている。米メディアからは、聖火の最終点火者や選手宣誓など「重要な役割の最有力候補」との観測も。本人の体調と競技が優先事項だが、一選手の枠に収まらない立場で大舞台を迎えそうだ。

（電子版）は、池江の結果や談話とともに、7月23日の開会式で大役を務める可能性に言及した。池江は最終日の10日に50メートル自由形とバタフライも勝ち、出場4種目全てで日本一になった。

「試練をたくましく乗り越えた姿は、未知のウイルスに翻弄される世界に対する強いメッセージになる。出場選手が聖火をとますのは、2000年シドニー五輪のキャシー・フリーマン（陸上女子）などの例がある。先住民アボリジニ出身のフリーマンは民族融和の象徴として起用され、競技でも金メダルに輝いた。東京五輪・パラリンピック組織委員会幹部は最終点火者について「何

も決めていない」と強調。過去の大会でもその瞬間まで極秘とされるケースが多い。開会式のちょうど1年前にあたる昨年7月23日、東京・国立競技場から世界に向けてスピーチする役を担った。その流れから、本番でも何らかの形で関わるのではないかとの臆測はあったが、アスリートとしての参加は絶望視されていた。

競泳は開会式翌日から競技が始まり、24日に池江が代表権を得た女子400メートルリレーの予選が行われる。翌日に競技を控える選手は開会式に出席しない例が多いが、固定観念を覆し続けるスターの動向に注目が集まる。

東京五輪代表選考会を兼ねて行われた日本選手権。4日の100メートルバタフライで優勝し、400メートルドレーリレーの選考基準を満たすと、海外メディアも驚きの「奇跡」を報じた。8日に100メートル自由形を制し、400メートルリレーでも代表に。米国内で東京五輪の放送権を持つNBC

2021年4月11日(日)朝刊 全道版 社会 29P(記事は一部再編集しています)

①見出しに「池江4冠」とありますが、池江選手が日本選手権で制した種目を全て書きなさい。

②見出しに「五輪の象徴」とありますが、池江選手が東京オリンピックを象徴する存在になると期待される理由を、「～から」につながる形で、本文中から書き抜きなさい。